

R.Bb/41  
2

明治十四年三月刊行

牧羊手引草

勸農局藏版







牧羊手引草

目録

羊の品性

羊の需用

羊の種類附圖

羊毛の品位

羊の年齒を相とる事附圖

羊を捕ふる時心得附圖

羊を徒行させる時の心得

氣船よて羊を運搬する時

冬春羊の管理

羊舎の事附圖



子宮轉置の治療

分娩後母羊兒羊の取扱

兒羊の尾を斷つ事

秋の取扱

羊毛を剪る事 附圖

羊に標號を銘する事

羊貳

羊蠅

羊蛆

羊を煙草の煎汁で洗

羊の爪を剪る事

放牧の心得



牧羊手引草

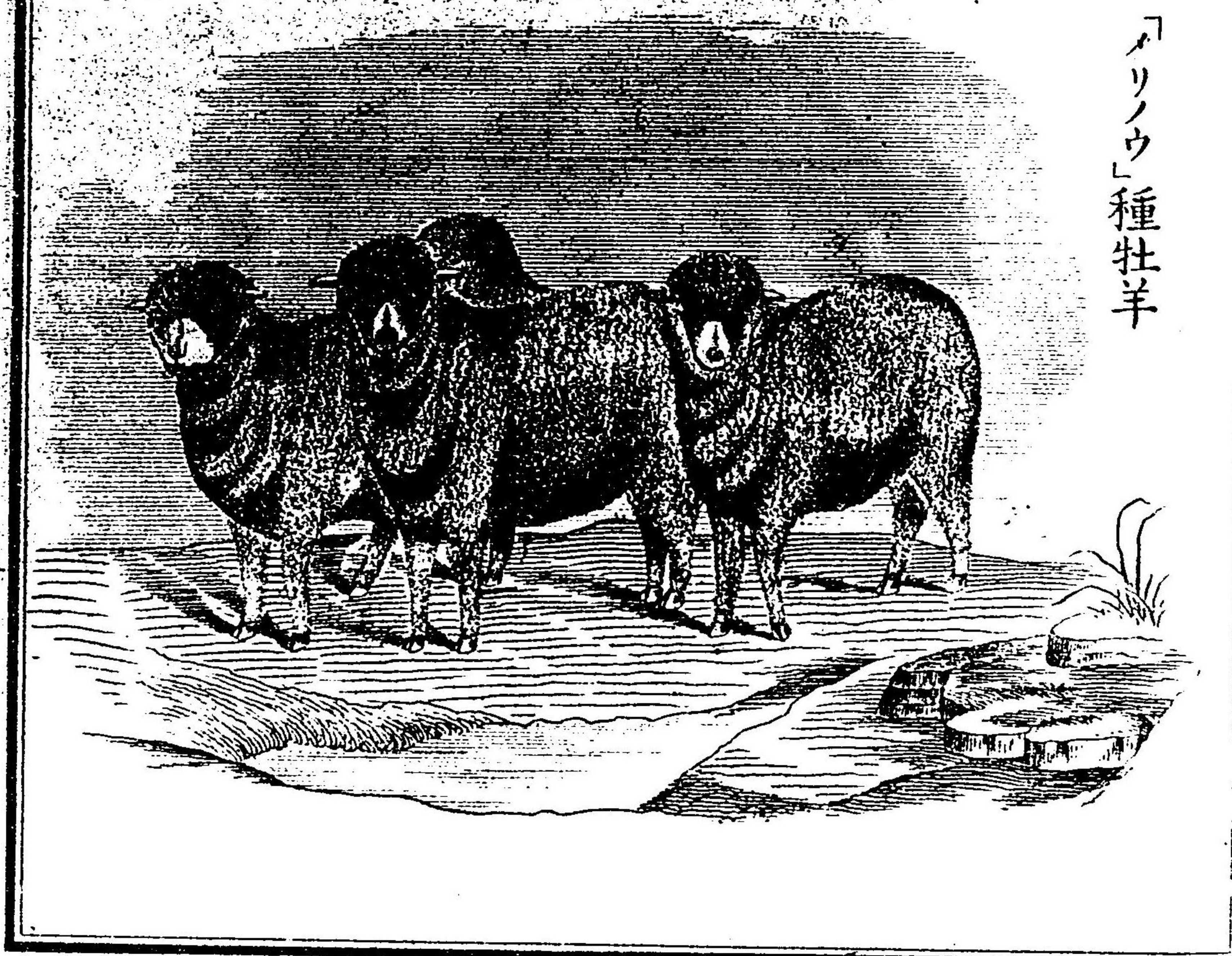
内務三等屬後藤達三 編  
内務省御用掛高銳一 訂

他の動物と異りて其大小色相等種々  
他の動物よりは住む所甚た廣く草となく  
食する所の物頗る多し即ち、ナルケニ一種の如  
き小羊あり、メリノウ種の如き有角  
者あり、はるかに羊の如き無角の者あり、またろの毛も、リンコ  
ルツの如き、羊の如く細くして  
はじさるなり其色も羊の如く赤黒白等ありと  
羊の常用



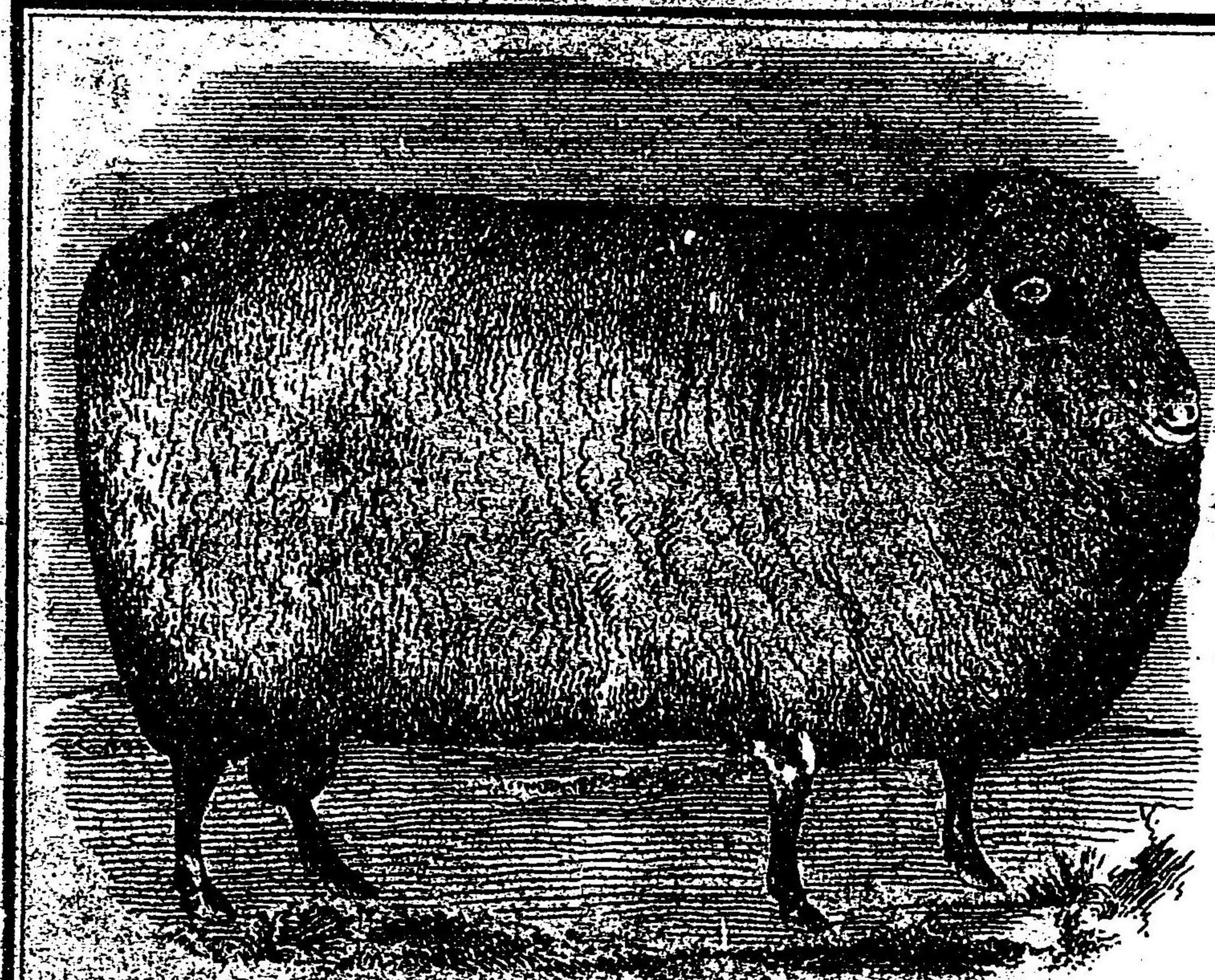


「メリノウ」種牡羊

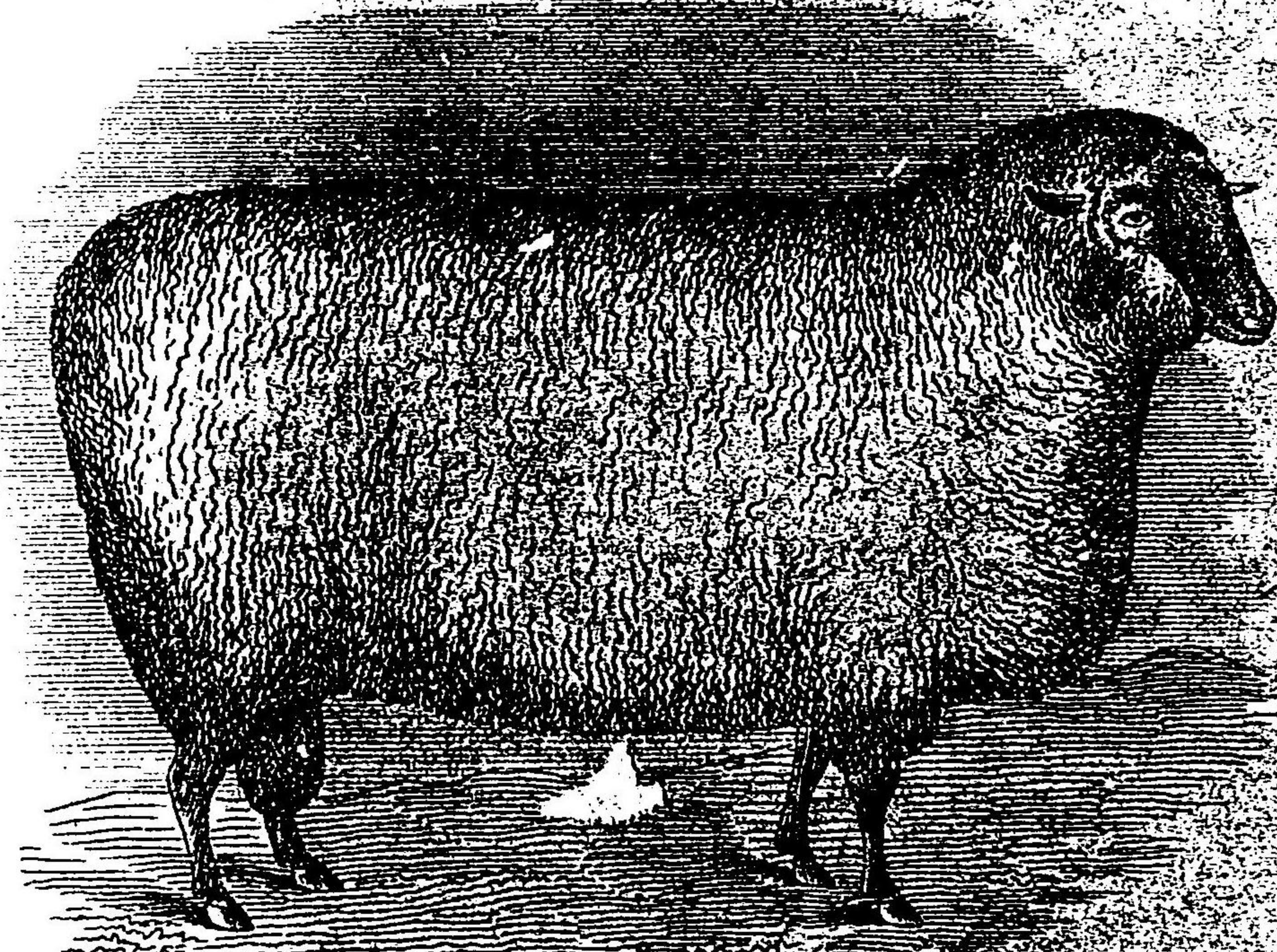


「メリノウ」種牡羊

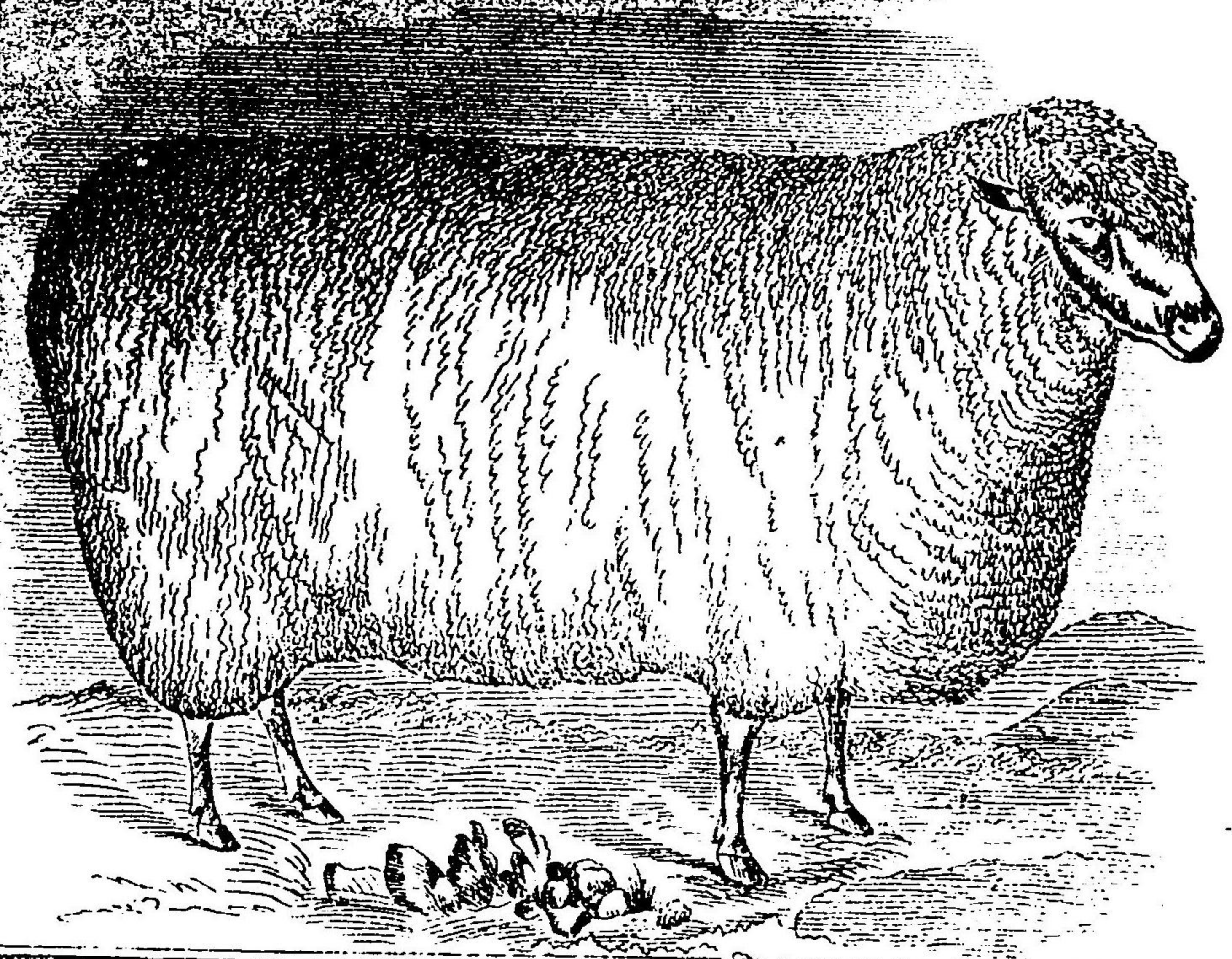




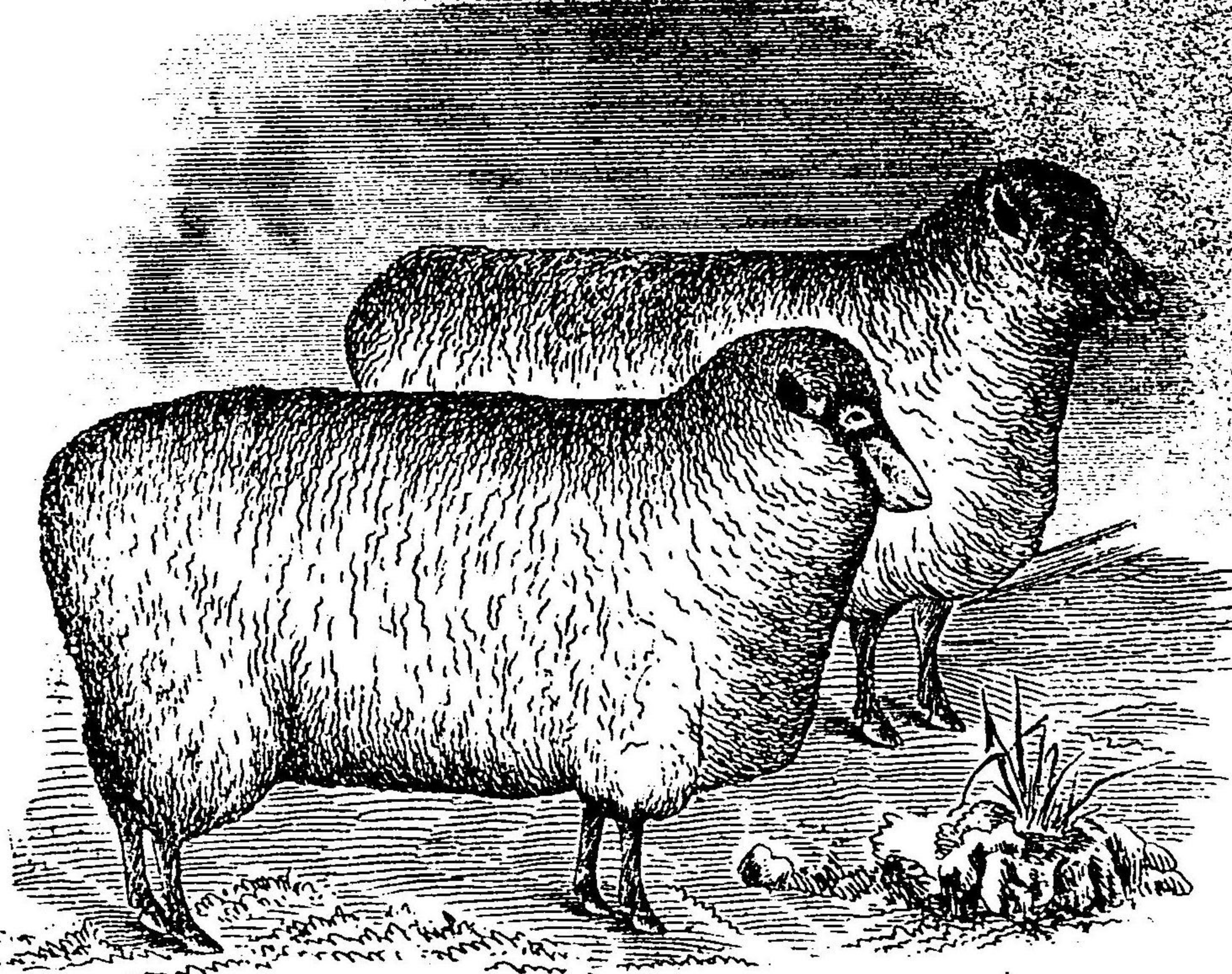
「シロップシルグレン」種牡羊



「サウスタイン」種牡羊



「コウオールド」種牡羊



「サウスタイン」種牡羊

五

四



羊毛の品位

長毛の長さは平均三インチ中毛は同トく三インチ半短毛の二インチ長  
毛の細さは大抵大小絨地は用ひ中毛の通常「ランネル」毛絨陸海軍の  
用服は用ひ細毛の毛織物は「ランネル」毛絨美絨は製す羊毛の價値は羊の種  
類と需要の好悪とで異なる故に一定の價なし

羊の板齒は一枚齒三拾四枚あり板齒の只下顎はあり齧齒は左右上下  
兩齧を生す板齒に對する上顎の部は平匾の軟脆骨あり此骨たる口を  
閉る時板齒と相觸れて齧齒を齧る爲めに具ふ総て變換前の八板  
齒十二齧齒の之を乳齒或は胎生齒と名づく板齒の中の二枚生前乃至  
生後直ちに發出す生後凡そ三週日にして二十枚は乳齒悉く出る者と  
す



十八日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 十九日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十一日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十二日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十三日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十四日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十五日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十六日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十七日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十八日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 二十九日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を  
 三十日 再生齶齒變換して再生齶齒發生を

廿七個月 初生齶齒變換して再生齶齒發生を

再生齶齒變換して再生齶齒發生を

再生板齒八個丁圖の(イ)に於るが如

掴みて捕ふるが如き粗忽よす  
 捕ふるかまたい後肢の膝節の  
 を握るか又左圖の捕羊竿を同  
 他方より掛けて捕ふるを最も良  
 くと捕へたる羊は充分



の麩皮五合麥一合を朝夕兩回に與ふ

明治十一年五月米國加里福尼州よりメウノウ種四百頭を當場へ載漕せし時一日一頭の飼料の良好なる乾艸三磅麩皮三合半なりこの乾艸の最上品故一頭を死せざりし但し一頭の運賃六弗なりき

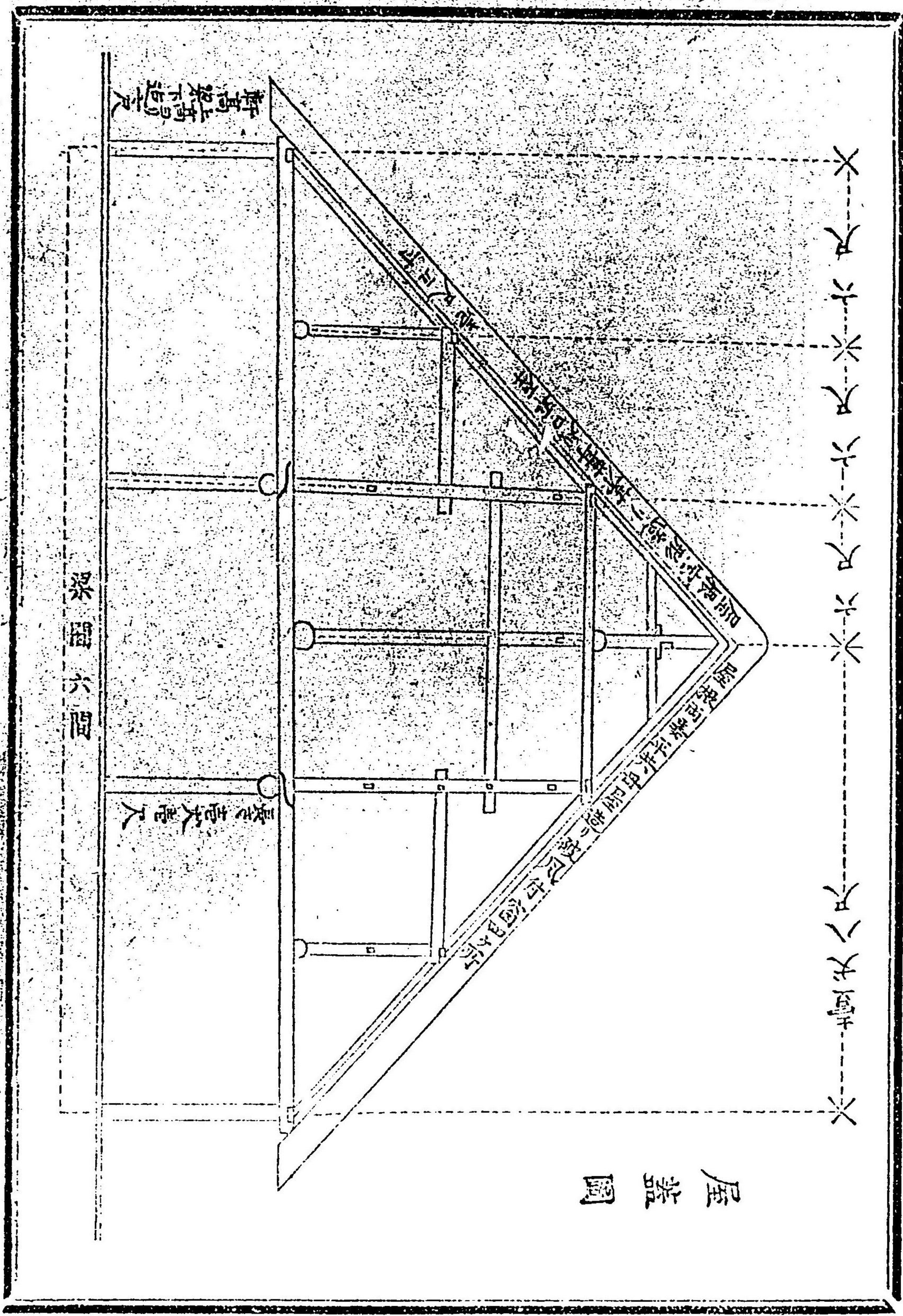
冬春の管理

羊舎の必牧場の事

面開潤して東南の天に設け北の樹林或は山崖を帯て寒風を遮り南の前面造すべし構造法の牧場書に於て自然退水の利ある處を撰て建形即ち鍵の造るに造るに代へる南向の羊舎は大抵西南の風衝強

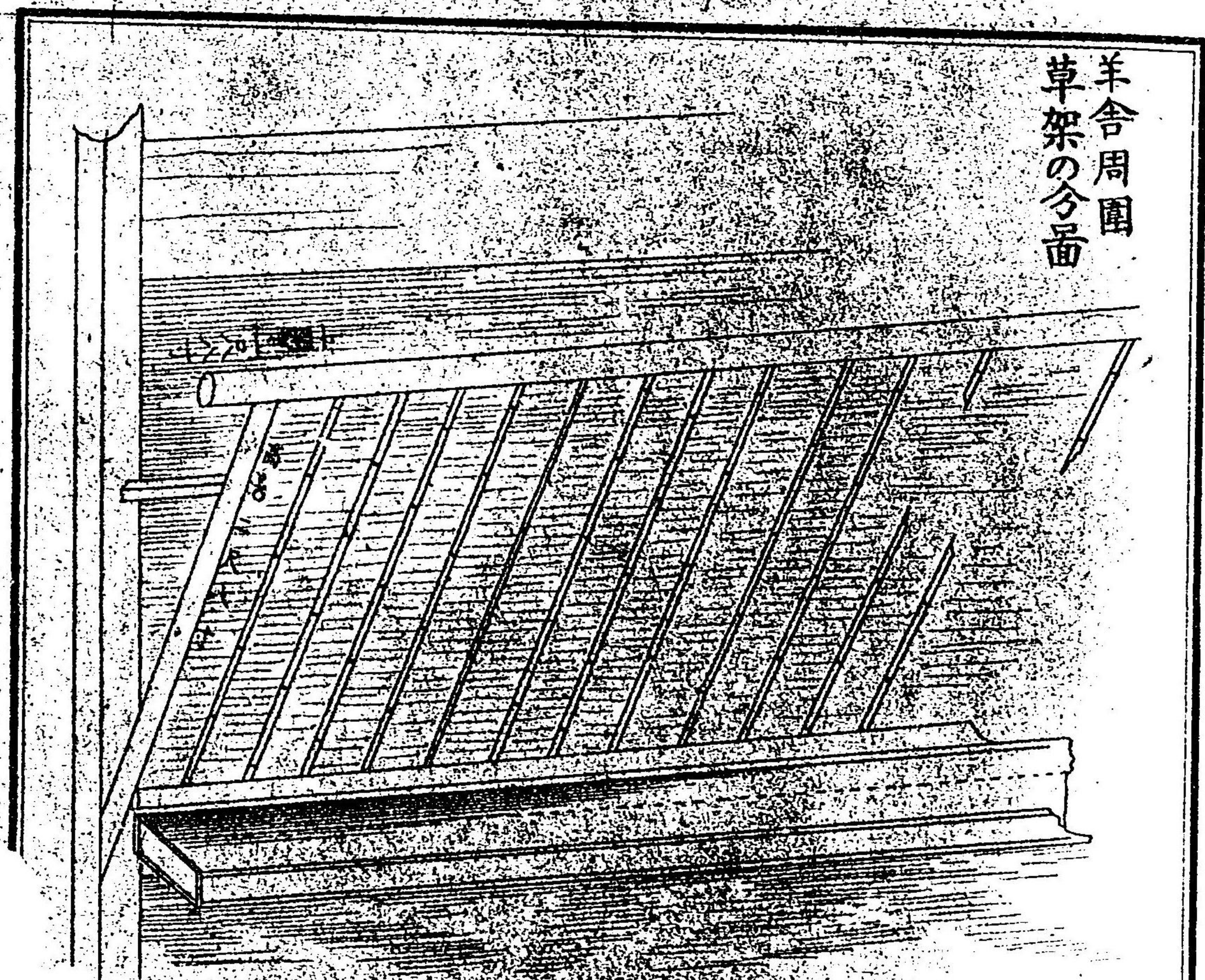
べければなりまたL字形おせず  
ま板障或は土垣を造りて風を防



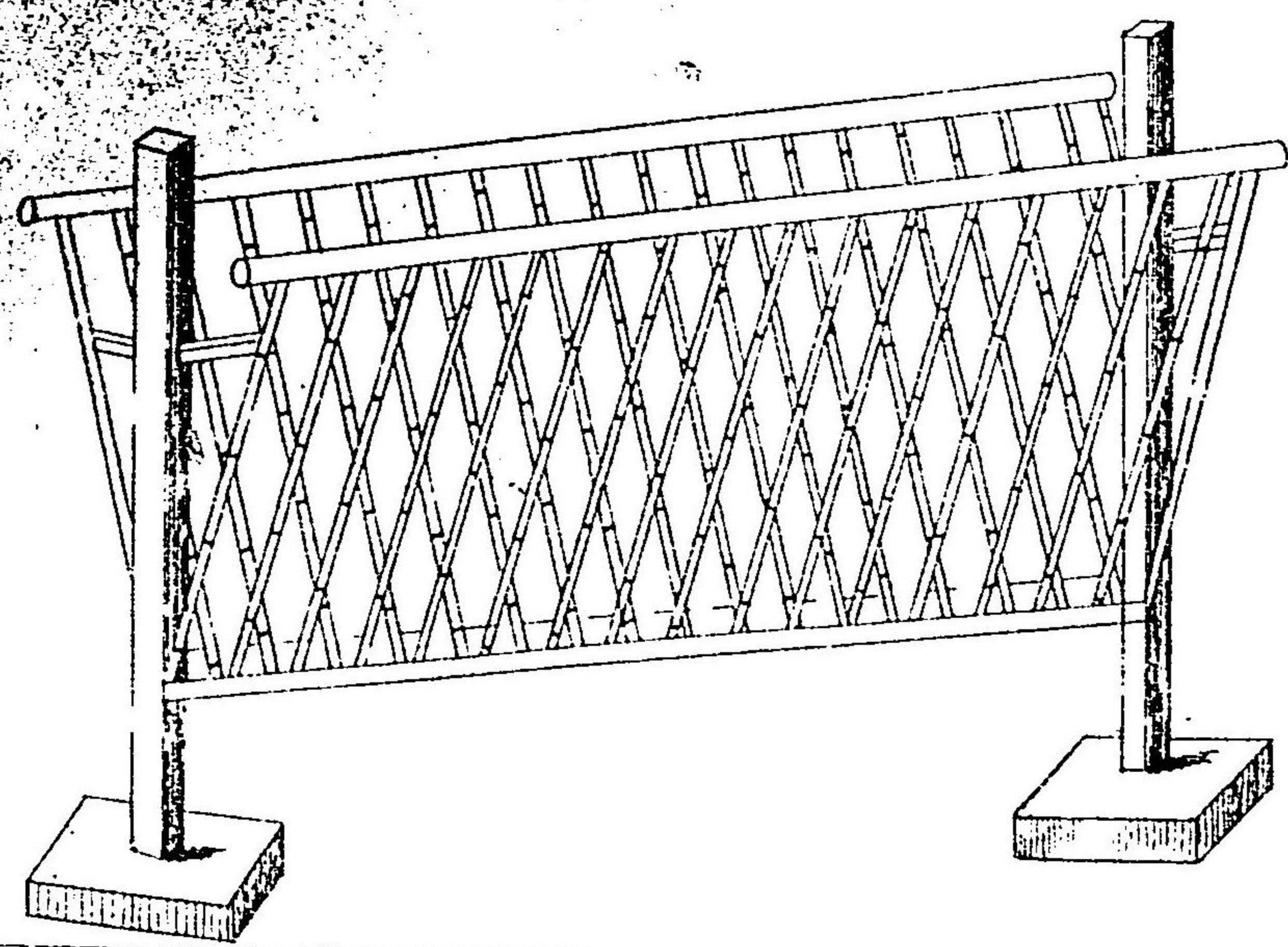




羊舎周圍  
草架の今番



二重乾草架

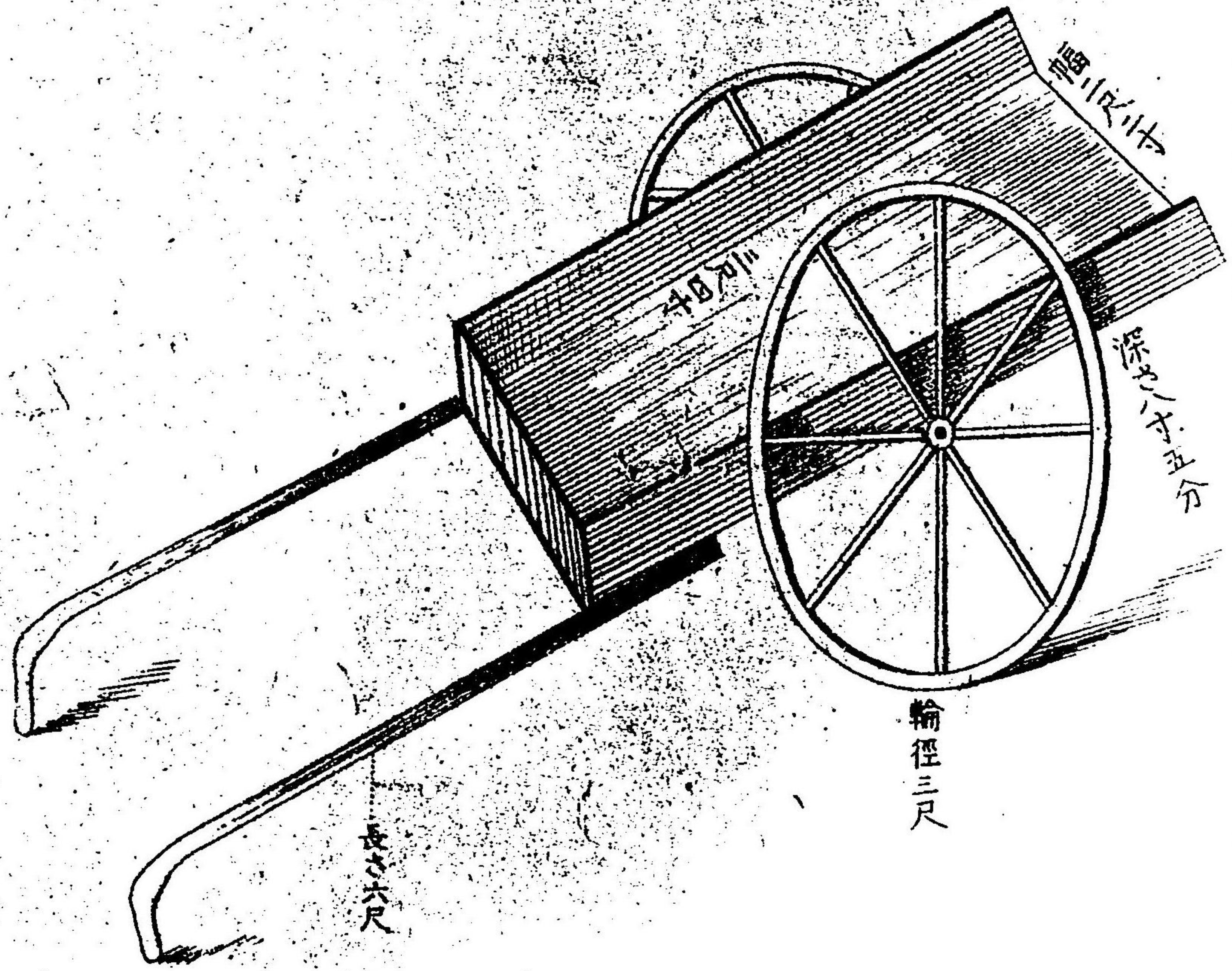




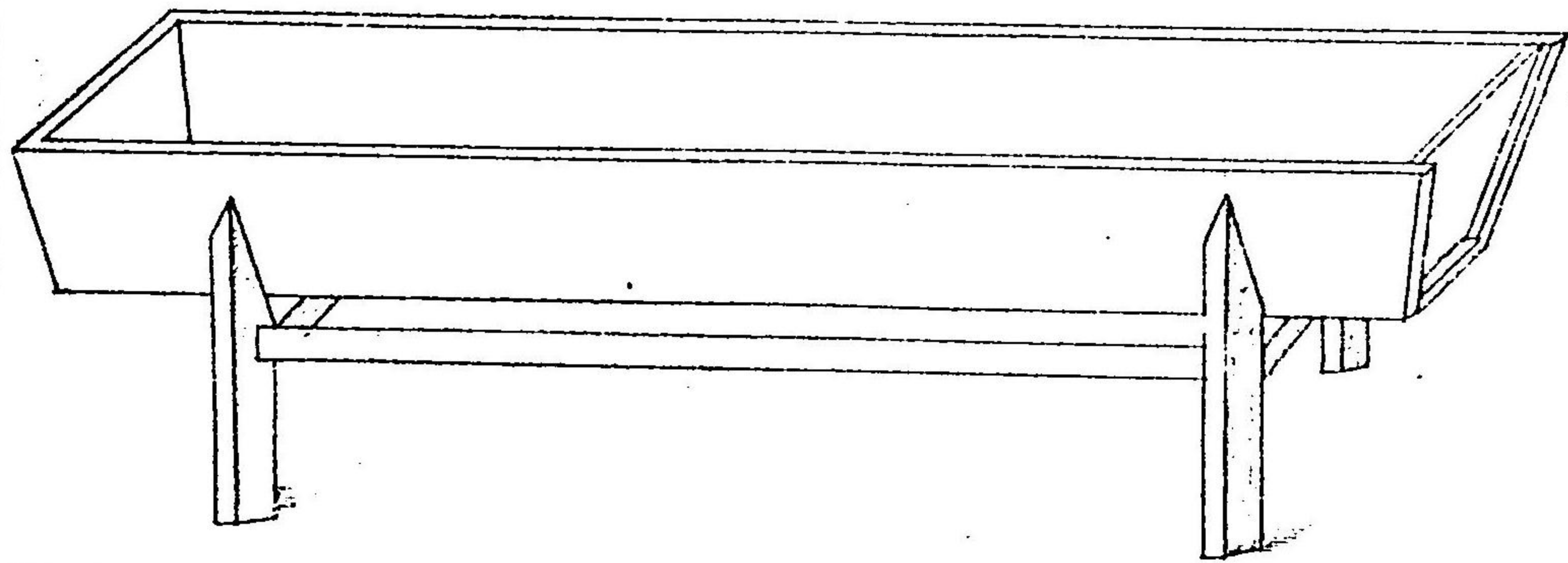
う注意し且飼養の際衰弱不食の羊を見る時は之に標號しるしを記し群中よ  
り出し各羊に標號を加ふべし殊に開口の戸は雨中の外は夜間といへ  
ば出入せしむべし看護者は常に舍内に住  
み内外を巡視すべし



糞車



飼槽の品





此外に量桶提桶等の用具を備へ置くべし

飼料の事

當場の青草は犬抵十一月初旬より始めて凋萎し翌年四月に至り萌芽す此時開を枯草の期と稱へ四月より十月までを青草の期と名づく枯草の期即ち十一月十五日より飼料を次第に増し與ふその飼料たる穀物にては大小麥燕麥、藪皮、蕎麥、玉蜀黍、稗、大豆、根菜にては蕪菁、蘿蔔、甘藷、馬鈴薯の類を與へ飼草にては乾草、豆莢、玉蜀黍稈、稻稈、燕麥稈等を以て用ふるに止りて多くは當場に採獲せし物なり飼料の額はるの品滋養分の多少に由りて差異あるへし故に次の滋養比較表に照く一般の羊群には藪皮四合を定度として去れに應じべき分量を或は混合し或は交換して與ふ総ての價は五厘に止まれども時ありて油餅等を購求して與ふるも多くは五厘に超ゆべからざる総て飼料を動物に與ふるには

時刻と分量とを守りて猥りにそべからず且諸般の飼料豫め善く調査し過量などのある穀物は一切與ふべからず又根菜を切りて碎片となし一日一頭毎に大約三磅一磅は我と定むれども専ら根菜を以て飼ふ時は此限をあらす総て霜に覆はれ又は凍りたる根菜は最も忌むべしこれの害を免るるには、特殊な乾食の物品にて飼養する時根菜を飼ふ時は、腹部を利し秘結の害を防ぎ且其體と毛とに切要な穀及び疎葉を與ふ機能あり乾草は十月上旬より一日壹頭毎に大二三磅乃至四磅を以て晝夜とも與ふるも、牧艸枯凋の現状を俟て與ふるを善とす但し豆莢、玉蜀黍稈等を貯ふる間はこれを以て代用する最も善とす乾草は首宿、零陵香、綠麥草、貓尾草、赤頭草の類は極めて良とす此等當場にては未だ乏しき故に乾草となすべしほどの量を得ざれば已むを得ず從來粗悪なる天然草の養少き者と與ふるが爲めろ



の補助として別に穀物を配するなり

動物飼料の養分比較表

|         |       |     |      |       |     |     |
|---------|-------|-----|------|-------|-----|-----|
| 極長牧草の乾草 | 百     | 磅   | 胡蘿蔔  | 三百八十九 | 小麥  | 五十五 |
| 苜蓿      | 七十五   | 馬鈴薯 | 三百十九 | 蘇皮    | 五十  |     |
| 麥       | 四百七十九 | 豆   | 二十三  | 亞麻仁油餅 | 二十二 |     |
| 麥       | 三百八十五 | 豌豆  | 二十七  |       |     |     |
| 麥       | 四百六十五 | 玉米  | 七十   |       |     |     |
| 小麥      | 四百一十五 | 麥   | 五十五  |       |     |     |
| 燕麥      | 六十四   | 大麥  | 六十五  |       |     |     |
| 瑞典燕麥    | 六百七十六 | 燕麥  | 六十   |       |     |     |
| ルドル     | 六百七十六 | 稗   | 五十八  |       |     |     |

右表は佛國の農業化學者ブロンノウールの記したる者小係り極長牧草

の乾草百磅を元數と定めて飼料諸品に於る滋養分の多寡を比較したる者とす例へば初行の欄内小乾草百磅を記し末行の欄内に亞麻仁油餅二十三を記したるは乾草百磅を需用するの際油餅なれば僅に二十磅を需用するも其滋養分の同一なる者とす餘は推して知るべし

米國博士バルス甘薯の分析に二百度の温度にて乾炙したる甘薯の水分の百分の五十八・九七なること

東京農學校屋英人化學教師エドワルド、キンチ當場の蘿蔔を分析するに其固形分は僅に百分の五〇・三にして水分の九十四・九七なりとす

放牧の事

冬季羊を放牧するに於ては、大抵午前十時より午後四時との間に在りて、若し雨雪等にて寒威極めて烈しく、又は堪へ難きは、どならば羊を



雨下或は雷雨は聚めて候ふときは雷より言ふを待たされども平常と  
 ても寒風の方角を考へ穀物の刈跡隄防の附近又は牧場の凹凹ありて  
 向陽宜き他所を撰て放つべし但し降雪の日は羊の取て候れざる者ゆ  
 り多敷とるともさせざる害なしとするの飲水にのみ必き井水を與ふべし  
 飲水の間或は群お後れ或は跛行しまたは咳嗽し頭を垂れて飼料を食  
 ざる等の異徴を見る時は速に標號を記し群中より擇び出し對證の調  
 治方を加へべし  
 西洋冬春秋の中間々加多兒と名づくる感冒症を罹るふとあり此病の  
 症たる鼻内は粘膜嫩衝して唯僅に粘液を鼻孔より泄らし即時危険の  
 症に非れども加多兒の狀變トて嫩衝敷衍し氣道食道は粘膜重疊し  
 て呼吸困難を致し刺戟咳嗽を發するとあるよ於ては次の藥劑を施そ  
 べし

瀉利鹽 半匁 硝石 壹匁

生姜末 壹匁

加多兒久しと止まづ乾咳を發するは肺を感ぜる者と知るべし務めて  
 病源を剔しき物を除き生姜末半茶匙半の輕刺衝劑を和したる燕麥粉  
 或は並に熱湯の飲料を與ふ若し熱氣あれば前の藥劑を與へ鼻端猶  
 候候かへ丹ひ此藥を用ふべし

羊尾の事

此の動物の蕃殖に二様あり一は同族蕃殖と一は異族蕃殖とす同族  
 蕃殖は同種の中にて親近なる血統の蕃殖するをいふ譬へば何種の羊  
 よても同一血統の者と交接せしめれば同族蕃殖なり異族蕃殖とい種  
 異血統とも全く異なる者の蕃殖するなり譬へばウウ羊とサウダ  
 チン羊とを尾せしめ米國ウウ羊と歐洲ウウ羊とを交接せしむ



るが如き是なり、  
 而も可成養育は親近血統の蕃殖なるを以て牧畜家の異議少なからざ  
 りしかともまた一種新出の羊を導らんとを圖り以て去れを保續せし  
 めるには此蕃殖法之る切要なれ故に能く思慮して去れを施せば貴價  
 の結果を得て永遠に傳へし異族蕃殖にては羊體を大ふし形狀を改  
 めし肥壯を催かし毛を長く質を善良ならむ等を希圖する方法  
 なりて此種とも純種ならざる羊を導尾せしむれば見羊の常より劣り  
 たる者より勝れたる者には似よりされども不純粹の牝羊も純粹の  
 牝羊と交尾せしむれば見羊漸を逐ふて改良し遂に純粹となるべしそ  
 の純粹は近き羊を良種と稱ふ即ち改良羊と言ふ意なりまた異族蕃殖  
 に係りたる雜種の品位數等あり即ち初回蕃殖したる者を二分の一即  
 五分雜種第二回の四分は三即ち七分五厘雜種第三回の八分の七即ち

八分七厘雜種第四の十六分の十五即ち九分三厘雜種第五の三十二分  
 の三十一即ち九分六厘雜種第六回を以て幾んど純種たりとすメリ  
 ム牝羊は七八個月の年齢より八歳乃至十歳の年齢まで葦尾に用て健  
 壯なる見羊を得る者なれども猶其使用過度ならずい晩くまで使用す  
 るを得ず牝羊の完く壯健にして勢力の熾なるは三歳より在り通例七  
 歳乃至八歳を幸りて漸く衰へんとす幼稚の牝羊は固より健強肥大の  
 能から其健全を思ひて十頭乃至二十頭以上の牝羊に用べからず一歳  
 たる牝羊の成り牝羊の二分の一の勞役に堪へ二歳の三分の二に堪ふ  
 る者なり通例健強なる成り羊一頭おて一年に二百頭の牝羊に使用せ  
 らるべし

牝羊如斯の曲は大約百五十日間なるを以て出場しては葦尾の間を十  
 二月初めより日數は五十日間とすは春四月より五月の間大



氏等神の病、用る頃小分宛すべし。種牡羊の頭數ハ牝羊三  
 倍にす。一頭の割合を以てして、牝羊一處に放つものへとも牡羊の性質  
 によりて多量な能ざる者を見認めなば、これを更換使用す但し牡羊  
 の善言季節前二箇月前より飼料を増し與へ、牝羊は當時の景況に由りそ  
 の旨に隨て飼養す。羊尾中牡羊の狀態に依りて是を牝群より引き離し  
 別は飼養し、後再び用とることをわりとす。

羊尾後牝羊の注意  
 羊尾後牝羊とも、軟皮、脚、燕麥等の飼料を増し與ふるを善とす。亞麻仁  
 油餅ハ腹内を緩むる性あるを以て當期牡羊に與ふるも牝羊ハ與へ  
 ざるを善とす。

來春分娩の初にハ嫩艸未だ盛ならざるをもて苜蓿の如き早く發芽す  
 る牧艸地の設なくハ羊四五十頭に四五反歩の割合に稈麥を撒らし、時

さにし來春母羊兒羊を放つに備ふべし

冬季疥癬羊の治療

畜羊に極めて盛し易き病ハ疥癬とす。是ハ觸接の皮膚傳染病にて一頭  
 より一頭へ傳へ此群より彼群へ及ぼし忽ち全群を擧て病羊となそと  
 なり。元來皮膚の病たるを以て一時に數百頭を殞すことあらずとも貴  
 重の羊毛脱落し體力衰弱して無價不用の者たらしめ且これがため種  
 々の他病を發し藥餌の効なく終よその命を失ふに至るべく殊に夏季  
 同下から老煙劑煎汁の浸湯法を施し難けれハ専ら豫防の備へある  
 べし。但し冬季の治療ハ左の軟膏を塗抹するを善とす。

水銀膏製法  
 水銀 一分  
 豚脂 二分

右二品を研碎し他の器物に入れ煉り、瓶へ置き需用の際右強軟膏



に香油四ツ、油へ再び之を煉るるべし

蘇水銀膏法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

蘇水銀膏の用法

春季嫩草の發芽する際、冬飼は乾食物より青草に移るの期節たるに由りて苜蓿の嫩くして汁多き牧草などの生る場處ハ羊をして一時に多食せざらしむべし如し多食せしむれば往々下痢を發することあり

春の嫩草に羊を放つ時の心得

多種糖 五斤

硫黄 四斤

菜油 十斤

下痢の治療

下痢にハ常々飼料の度を違へせまた急よ變換することなくして毎日食糧の定量を絶えど與へ置けば豫防すべけれども若し下痢止まざる時ハ次の方を施すべし

藥用白土 一斤

阿仙藥

四斤

生薬 一斤

阿片

半斤

右四味を薄荷水半盃印爲に和して瓶に納め置き二食七の量を朝夕兩回與へ但し兎羊に之れを與ふるハ半量に過ぎず

青草嫩草の發芽の期に言如く下痢を罹り易くこれが爲め肛門の邊に軟弱を呈するの恐あり且分脱後兎羊の膈孔も易からんためメリノウ羊の如き細毛の者ハ此期に先だち肛門の腫れ及び乳房の周圍の毛を絞



分娩の期、非地により、異同あれども、當場にては大抵四五月に在り  
 此期に近づくに、羊舎の内に母羊、幼羊を、可き適當な場所を定  
 め、置き、母羊を厚く鋪き、通氣を好くせしめ、分娩に迫りたる牝羊を識別  
 せらるゝ甚だ辨別せしめ、通例陰門の紅色となりて少しく腫脹し、乳房の漸  
 々大なる者、其身に、暗く看護者深々注意し、夜中といへども、しばしば  
 冷やを巡視し、分娩の際に、初めて羊に近かざるべし、牧場又は圍場にて  
 羊の徘徊する際、まづ分娩するまであり、その時は、兒羊の一二回哺乳を  
 するまで、放ち置かざる、後看護者、兒羊を抱きながら、母羊とも舎内に入る  
 べし、  
 平産には、助手を兼するまゝと稀なれども、時ありては、羊疲れて分娩せる

に、悩み、苦しむことあり、此時には、看護者、その現状を審にすべし、平産な  
 りは、先づ、兒羊の、前肢と頭を、一時に、露し、すべし、然るれば、たまふ時刻を  
 移すも、助手などして、安んずるものなり、若し、逆産、おて、兒羊の、所在、正し  
 からざる時は、練熟せる看護者の、扶助を、専要とす、若し、練熟せざれば、そ  
 の、背置、急遽、制法と、するを、以て、甚だ、危ふしとす、是を、以て、逆産に、臨めば  
 看護者の、手は、油を、塗り、て、逆し、せし、露は、れたる、部分を、徐々、陰門に、壓  
 入し、兒羊を、し、本位に、復さ、し、むべし、初に、後部を、露は、せ、まゝと、ある時  
 には、部を、余を、陰門に、推し、入、し、後、輕く、後部を、探り、出す、まゝと、あり、また  
 前部の、助を、陰門の、下、に、さ、る時、か、手に、て、余を、出、せ、べし、且、母羊  
 の、口、に、あ、ら、は、新、産、の、物、を、出、せ、し、て、咽、を、利、し、て、咽、を、善、と、す、母羊の  
 口、に、あ、ら、は、新、産、の、物、を、出、せ、し、て、咽、を、利、し、て、咽、を、善、と、す、母羊の  
 口、に、あ、ら、は、新、産、の、物、を、出、せ、し、て、咽、を、利、し、て、咽、を、善、と、す、母羊の  
 口、に、あ、ら、は、新、産、の、物、を、出、せ、し、て、咽、を、利、し、て、咽、を、善、と、す、母羊の







能く洗ひ... 部を... 助手... 徐に指を陰門に推し... 復さ... 防ぐため強... 陰門の両側を... 合せ軟かなる臥草の... 起し... 低くせしむる... 二十乃至三十... 右温湯に投じて... 分娩の後母羊... 小群となすの固より言を待たせ産後一... 二日を... 備え置き... 牧草地又の稗麥圃中へ母兒と... 放つべし... 二時... 多しむるは宜しからず故又初日の一時間... 次日の二時間... 放牧の時間を増し隨て終日になさしむべし... 分娩の後... 速に兒羊に吸乳を知らしむる... 專要なりもし母羊不

幸にして斃るか或の乳汁足らずして他の母羊の乳汁を用る時... の羊の乳汁を... 多からしむる爲滋養多き飼料を増し與へ且熟草の... 牧地へ放つべし... 母羊の乳汁多き時の斃れたる兒羊の... 皮を剥ぎ去り... 母羊に着せしめ共に幽暗の處に置... 母羊の乳汁... 母兒とも一時幽暗の小室に... 入れ置けば多くは慈愛を加ふ... 羊のなり但し毎歳斯の如くは... の羊に標號を記し尙ほ惡癖の羊を認むればこれを肉舖に販賣すべ... 母羊の尾を斷り... 五六日... 尾を切斷するの羊の體

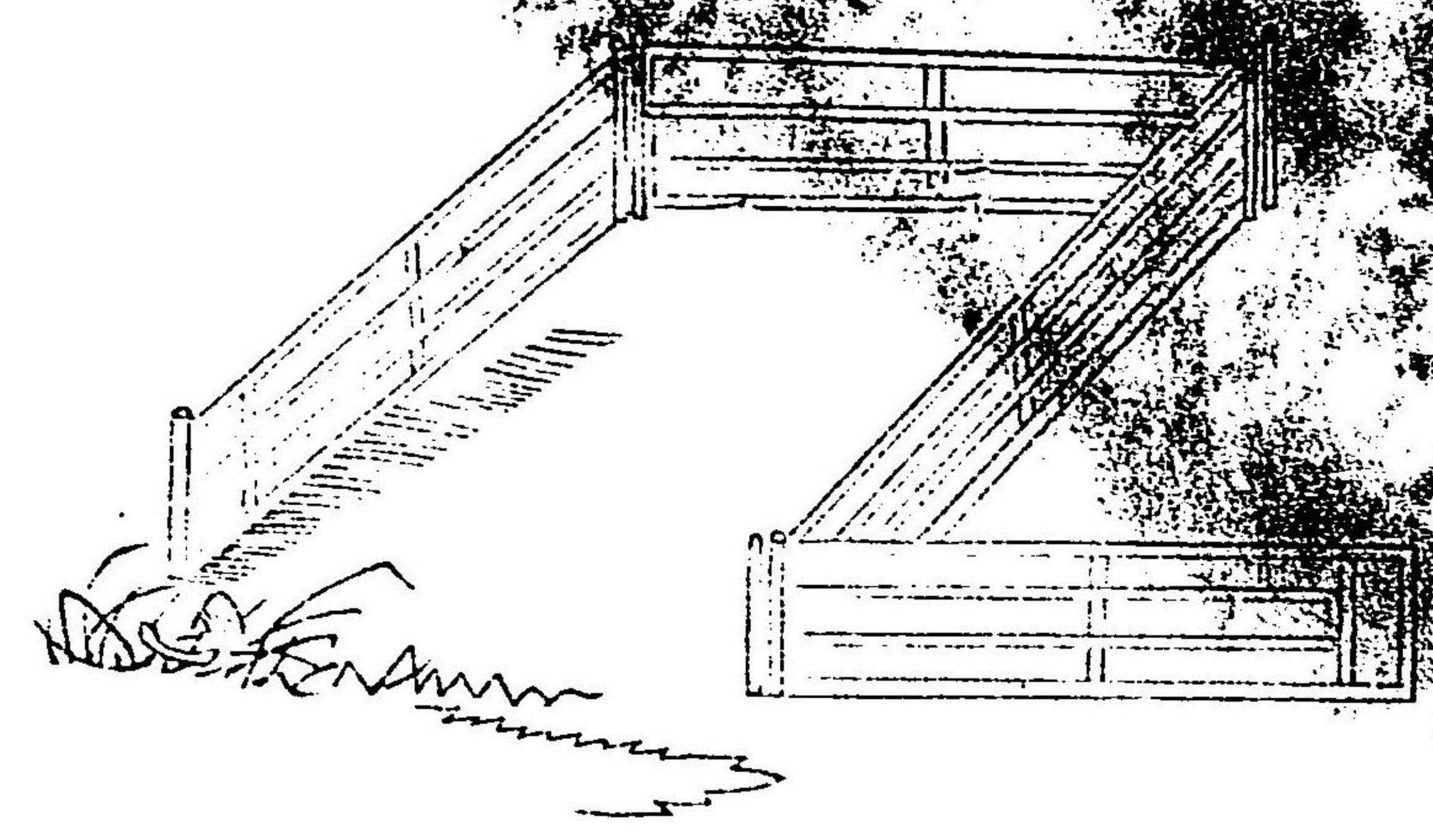






乳房小さくして毛不覆はるゝが故誤て乳頭を絞斷する法とあり殊

左側は乳房の位置を示す。右側は乳頭の位置を示す。乳房は小さくして毛不覆はるゝが故誤て乳頭を絞斷する法とあり殊。乳房の位置は左側にあり、乳頭の位置は右側にあり。乳房は小さくして毛不覆はるゝが故誤て乳頭を絞斷する法とあり殊。







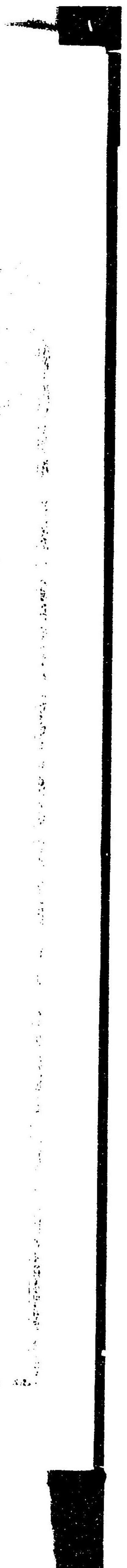
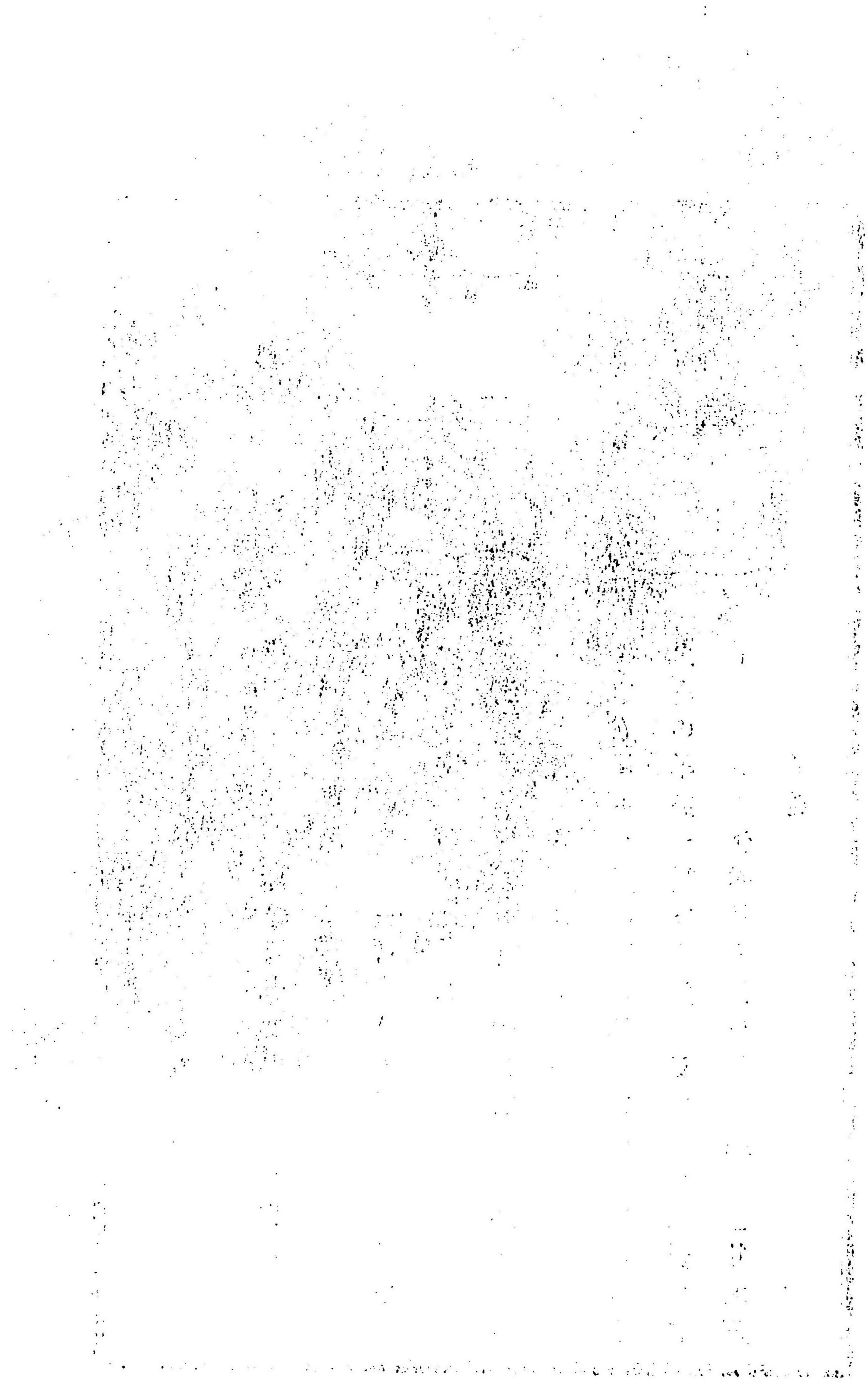
よ注意せざるべからず羊は剪毛中といへども時々脱糞するを以て剪毛者れ傍に小箒を置き絶えず掃除して床上の清潔を要す屑毛はすべて筐はこ又は箕に納れ別處に収むべしまた毛を疊む者は剪毛の内面を下たにし檯上にて能く壓おさ平からし次圖の順序の如くこみ疊かさみ終れば絲にて細るなり  
 護者殊に注意して羊を  
 一めざるべし













鼻への体の長さは半  
寸をろの鼻孔に放ちおれ  
る卵を馳せ走り大熱を發

地上を低垂し蠅卵孵化すれば  
成虫も春まで此處に在りて許多

爾を掃するに在り多爾の蠅の惡む所  
の卵を殲し絶つべし故に六七月の頃羊  
臭氣を帯ふれば蠅は困瘁甚だ甚なし又早春驅虫の  
煙の煙を羊鼻に吹き入るゝも利とそ

羊油



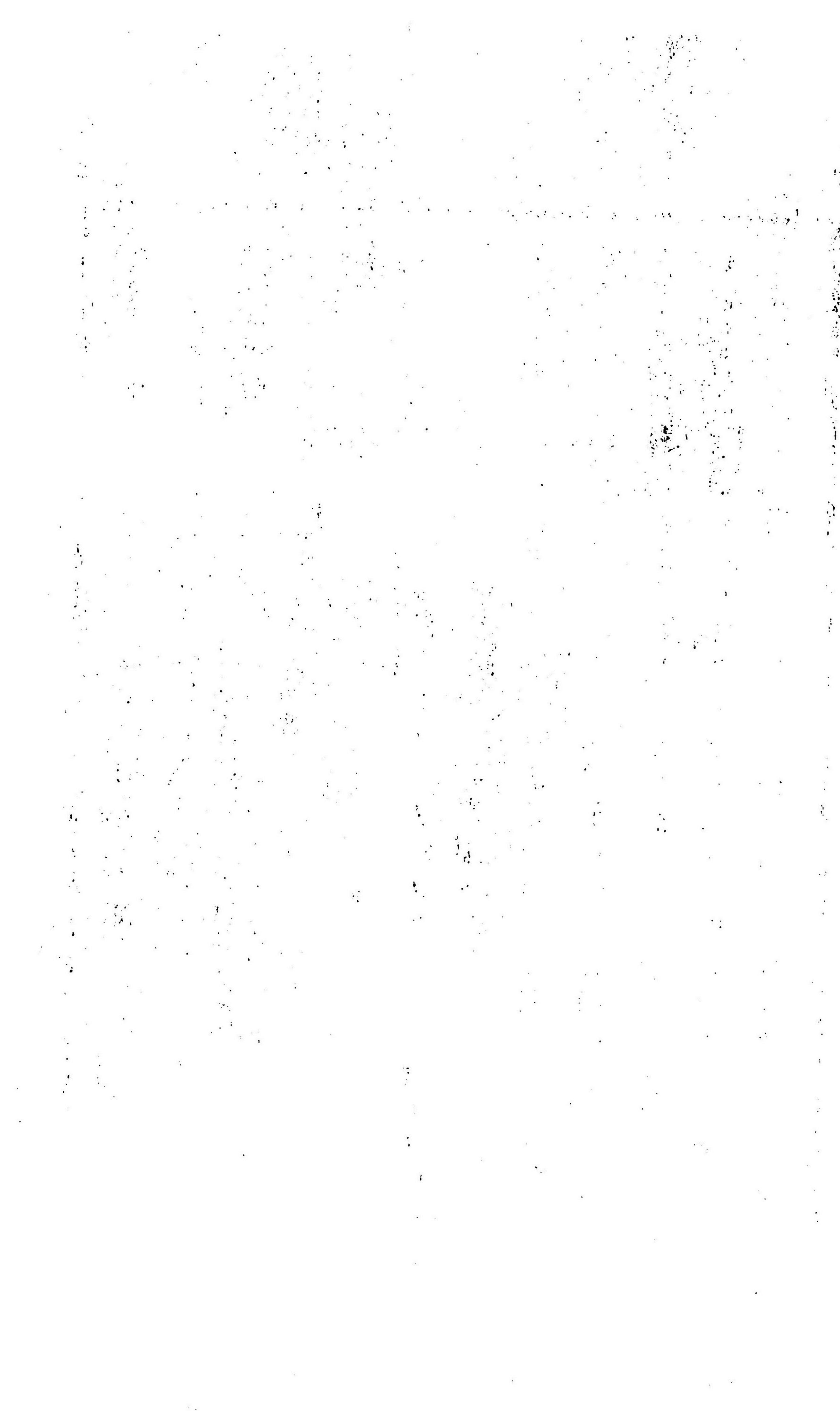
羊蛆も亦羊をして困瘁せしむる者にして通常の蠅及び緑色の蠅或は肉蛆の鱗蝨なり此等の蠅は総て動物の肌肉に其卵子を放り者とし然して羊の負傷せる部分又は下痢にて糞塊を帯びたる部分に多く生ずるの形雜蠅の体に卵囊有て内に數千の卵子あり羊體に緊り忽ち肌肉に蝕入して刺戟を起し滋養を吸収す

〔治療〕 鯨油、ウリ、石腦油等なり

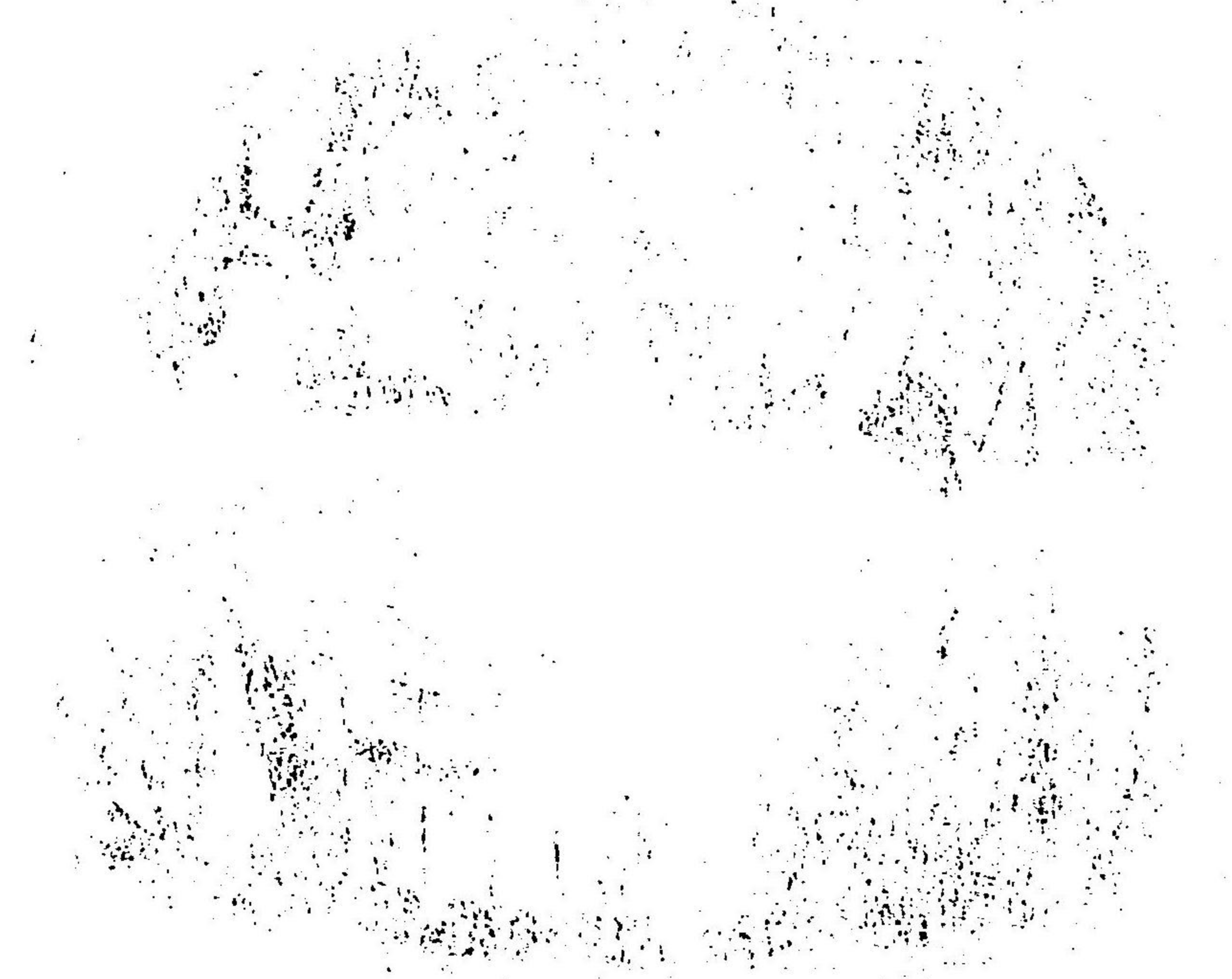
患部の毛は、て藥を施すべし斷乳の時乳房に「ケイミアタル」乳房に硬固なる部と名くる者を發せれば特別の注意を要す分の生定るをいふ

羊を煙草の煎汁に浸たす事  
當季疥癬を豫防するため羊を煙草の煎汁に浸たすふとあり大抵剪毛を終へたる後氣候煦温快晴の日を撰みて施すべし先づ壹石貳斗五升許の水を沸騰せしめ羊一頭毎に煙草六十匁硫黃三十匁水三升の割合



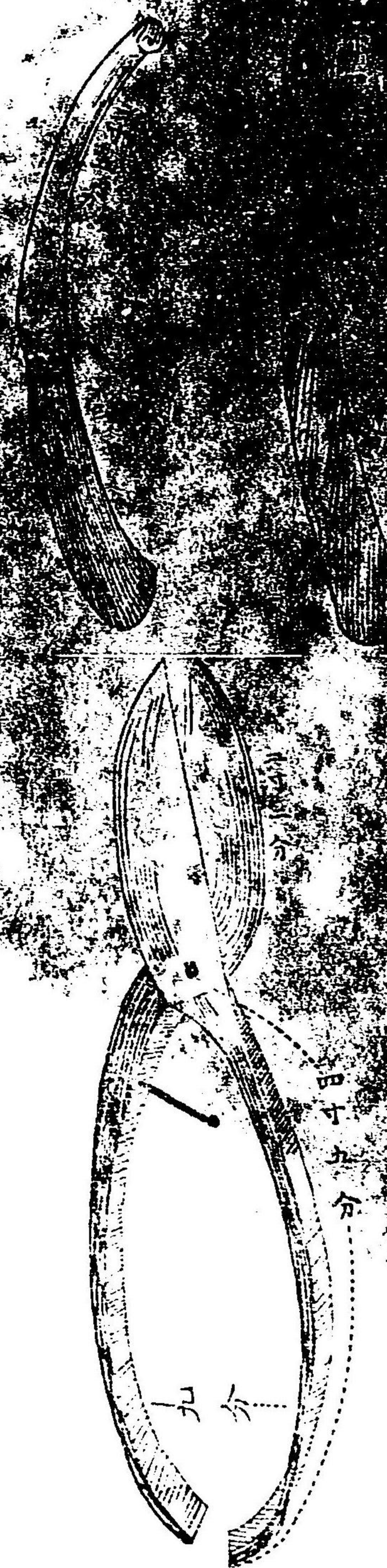


THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS





の鋸刃を以てこれ



剪る可し但爪の天然の形状を失はざるやう注意し若し伸長し過  
ぎ堅硬なる爪ならば剪爪鉸にて剪るを善とす

放牧の心得

雨の降る乾きたるを待て放牧をせしその運行の動物の自由を任せて

羊の田圃へ逃走すること無らしむべし且つ炎暑を避けしむるよの樹  
蔭を以て最も良とすれども樹蔭なき牧地なれば避暑場又ハ屋舎の内  
に入れて再び雨となり尚ほ日中の食慾薄く日の傾くは藪を咬  
じへさる由り黄昏まで放ち置くべし然して羊を秣ふ牧場分頭業地積  
は羊れ種類大小は由り去るの如くいへども通例良野の生る牧場にて  
は二エーカーの頭より四頭より七頭は止るなり又牧場にて牧夫一  
人の看護し得る頭数は牧場の地形及び練熟如何に依る所なれば確言  
は難し然し二百頭を以て安全なりとす又飼羊者の已に當季よ  
り加へて飼料を乾草収護の際を刈りすして暢茂は注意  
すべし又飼料飲水を常に新鮮に保たすべからず凡る暑月の  
間は疫病を發病する者と



羊に劇烈の傳染病を罹ること牛よりも甚しき時としては傳染感  
胃紅水病等も傳染をばし斯る時の第一は患羊を分ち置き健羊と雖ど  
移りて小群を保ち患羊は速に藥餌を施し屋舎を清潔にし病を醸  
成可き一切の汚物を除き去り舎内の通氣を好くし屢々飲水を汲み  
替へ且糞芥を掃除し石灰を撒布し又屢々舎内を硫黄を煮すべし快  
復せる羊の患羊を區分し四五日間別處に置き健全の狀を認定せし  
後健羊の群を離れし患羊を四五町許常々羊の往  
來せざる地を掘りて上より厚く石灰を撒布すべし

眼に侵されて發し或は數類を別りたる處に放ちて藥餌  
を垂れ眼隅より膿を出す



此種患羊を解  
除す水は冷  
加へたるを用

此種患羊は  
水の間は水疹を帯び  
歩行す

此種患羊の石鹼湯水にて洗ひ綿拭

入写

此印記

舌上久置



1967  
1968  
1969  
1970  
1971  
1972  
1973  
1974  
1975  
1976  
1977  
1978  
1979  
1980  
1981  
1982  
1983  
1984  
1985  
1986  
1987  
1988  
1989  
1990  
1991  
1992  
1993  
1994  
1995  
1996  
1997  
1998  
1999  
2000  
2001  
2002  
2003  
2004  
2005  
2006  
2007  
2008  
2009  
2010  
2011  
2012  
2013  
2014  
2015  
2016  
2017  
2018  
2019  
2020  
2021  
2022  
2023  
2024  
2025



1967  
1968  
1969  
1970  
1971  
1972  
1973  
1974  
1975  
1976  
1977  
1978  
1979  
1980  
1981  
1982  
1983  
1984  
1985  
1986  
1987  
1988  
1989  
1990  
1991  
1992  
1993  
1994  
1995  
1996  
1997  
1998  
1999  
2000  
2001  
2002  
2003  
2004  
2005  
2006  
2007  
2008  
2009  
2010  
2011  
2012  
2013  
2014  
2015  
2016  
2017  
2018  
2019  
2020  
2021  
2022  
2023  
2024  
2025









[Faint, illegible text in the left column]

[Faint, illegible text in the right column]



明治十四年三月出版

勸農局藏版

馬場町三丁目十三番地

有隣堂 穴山篤太郎

同 田區南乘物町十四番地

有隣堂 活版所

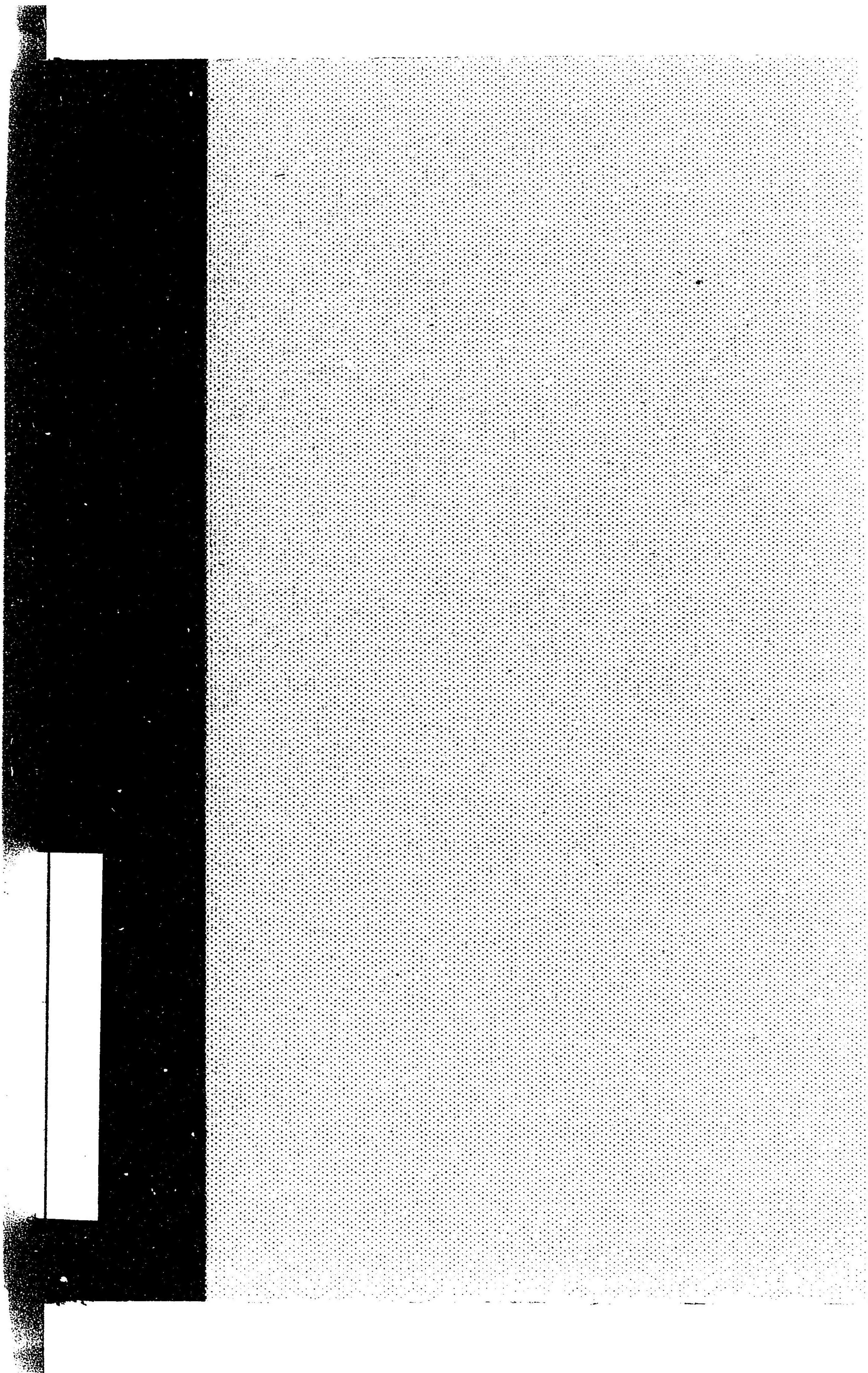
引草終

の











RB641  
2

牧羊手引草

国立国会図書館

300424-000-2

RB641-2

牧羊手引草

後藤達三/編, 高鋭一/訂

1881

BDJ-0036

